

少林寺拳法



防衛大学校少林寺拳法部

平成15年度 部誌・OB会報 No.30

HP アドレス : <http://www.nda.ac.jp/ed/syorinji/>

目 次

部 誌

- 1 部長挨拶
応用化学科 教授 菅野 等
- 2 学生寄稿
48期 主将 对比地 貴行
副将 廣神 敏
49期 主将 房野 賢一
副将 ター・ミン・タイン
50期 稲垣 孝洋
藤原 広匡
51期 寺田 浩昌
熊田 智徳
- 3 平成15年度部員名簿
- 4 平成15年度活動成果
- 5 各種大会個人成績
- 6 平成16年度年間活動計画
- 7 少林寺拳法部第47期政権編成表

奥平会報

- 1 巻頭言
奥平会会長 14期 中原 勇
- 2 平成15年奥平会活動概要
- 3 平成16年度奥平会活動予定
- 4 奥平会特別会費徴収結果および来年度以降の見通しについて
- 5 期連絡網について
- 6 連絡事項
- 7 奥平会会員名簿
別紙第1 平成15年度奥平会活動成果報告
別紙第2 平成15年度奥平会決算報告書
別紙第3 平成16年度奥平会活動予定
別紙第4 平成16年度奥平会予算案
別紙第5 奥平会収支と特別会計
別紙第6 奥平会名誉会員名簿
別 冊 奥平会員名簿

ご挨拶

部長

菅野 等

合 掌

全国のOB諸兄(姉)におかれては、輝かしい新年を迎えられてお元気でご活躍のことと思います。この部誌がお手元に届く頃には、自衛隊はイラクのサマーワで、イラクの復興と安定化のために大活躍をしていることと推定しております。まさに平成16年は自衛隊にとって記念すべき年になりますね。立派な成果を上げて、世界の平和と発展のために貢献する自衛隊の姿を日本の国民にはもちろん世界にも印象づけて欲しいものです。

防衛大学校の少林寺拳法部にとって、平成15年度は新入部員が20名以上入ってきた画期的な年になりました。現在も18名が熱心に練習に励んでおり心強い限りです。ここ5年以上新入部員が10名前後であったことを考えると本当にうれしいことです。このような調子が数年続けば往年の隆盛が取り戻せるのではないかと期待しているところです。主将の対比地君を先頭に頑張ってくれた賜物です。監督の高取君も部の雰囲気盛り上がるようにいろいろと試みてくれております。神田・頼富師範も熱心にご指導していただき、学生も現在は房野君が主将として先輩に負けないくらい熱心に練習しております。平成16年度は、防衛大学校の少林寺拳法部にとって、創部40年の記念すべき年でもあります。秋には記念パーティーを計画しておりますので多数のOB諸兄(姉)の参加をお願いすると共に、今年も暖かいご支援とご鞭撻をお願い申し上げます。

結 手

合掌

「心から少林寺拳法が好きだ。」素直にそう言える後輩を少しでも増やすことが、48 期主将としての私の目標であった。自分は引退した今でも、何よりも心から少林寺拳法が好きだと思える。高校時代までひたすら野球少年で、野球しか頭になかった私である。何故ここまで好きになったのか、はっきりはわからない……。ただ、少林寺拳法の真の面白さを伝えたい。政権時は、ひたすらそのことを考えていた。陸トレ中心であった少林寺拳法部を少林寺拳法中心の少林寺拳法部に変えた。少林寺拳法の技の練習を通じて、いろいろなことを学んでほしかった。克己心、同期の絆、素直な心。それまで、少林寺拳法部はひたすら厳しい練習であった。特に、2 年時の黒帯シバキ、3 年時の団演……。なんだかんだ言って、みんな自分で精一杯だったと思う。妥協すれば、当時の政権から熱い指導を受けた。逆に言えば、克己心なんて必要なかった。後ろから鞭をたたいてくれる先輩がいたのだから。しかし、厳しい練習を同期と共に乗り越えたことで、その絆を深めることができた。かけがえのない同期をつくることができた。誇りに思える同期ができた。その意味で、陸トレ中心の少林寺拳法部は意義のあるものであったと。しかし、その反面、少林寺拳法を心から好きと言える者は少なかったと思う。私は陸トレの中でも少林寺拳法への想いは手離さなかった。手離したくなかった。少林寺拳法をやっている自分の姿が好きだったから。後輩にも手離してほしくなかった。政権とってすぐに、49 期 50 期の中から転部者が出たのは、私にとってかなりショックだった。これから少林寺拳法の面白さを伝えようという時である。もう、こんな思いはしたくない。48 期にも、その点について厳しく言って同期の間に亀裂が入ったこともあった。48 期には申し訳ないと感じつつも、自分の考えは曲げれなかった。すべては後輩のために……。

48 期が政権を取ってから、それまでの雰囲気とは違うものを、49 期 50 期は感じたと思う。陸トレも科学的なものを取り入れ、根性論に陥らないように心がけた。政権が練習中に後輩に向かって「がんばれ！」と励ましの言葉をかける光景もあった。それまでは考えられなかった光景である。しかし、言い換えれば、政権からの抑圧的な拘束はなくなった。妥協する気になれば、妥協できる。すべては各個人次第であったと思う。今思うと、厳しい練習がなくなれば、それだけ自分に対して厳しくなるのだと感じる。自分を追い込んでくれる先輩はいない。自分自身で限界まで追い込まなければならなくなったのだから。4 年間の少林寺拳法生活を意義のあるものにするには。

だから、私は後輩たちに言いたい。「決して、自分に負けるな。自分で自分を極限まで追い込め。誰からでもなく自分で。そして、自分に克て。それは個人差があるから少しずつでもいい。でも、後退することなく、常に前へ進んで自分に負けない人間になってくれ。また、どんなに厳しい時でも、同期への思いやりを忘れない立派な人間になれ。自分に余裕がある時は誰でもそんなことはできる。いざという時に自分を顧みず、仲間のために進

んで助けられる大きな人間になれ。そうやってお互い助け合うことで、同期の絆は深まるし、かけがえのない仲間ができる。そして、誰に対しても素直になれる人間になってくれ。決して、ひねくれるな。大会に勝つことも大事。だけど、立派な人格を育成することはもっと大事だ。結果はその後についてくる。頑張れ！俺が誇りに思える後輩たちよ！」

・・・とは言うものの私もまだまだ弱い人間です。後輩に負けないように防大卒業してからも、自分に克って克って克ちまくって真に強い人間になりたいと思います。最後に、私たち48期を支えてくださった神田先生、頼富先生を始めとして、共に練習に励み、親身になって御指導してくださった高取監督、井田副監督、その他関係各位の方々に感謝申し上げ、又、49期以下が素晴らしい少林寺拳法生活を送れることを祈願して私の挨拶とさせていただきます。48期、ありがとう。

結手

「48期副将として」

48期 副将 廣神 敏

合掌

防大少林寺拳法部をこの原稿で語り尽くすことはできない。防大4年間を振り返ってみると、いつも少林寺が思い浮かぶ。全てが忘れることの出来ない大切な思い出。ここで、思い出を語ると長くなってしまうので、49期以下の後輩たちに伝えたいことを述べようと思う。4年間で多くの教えを学んできたが、その中でも、「半ばは自己のため、半ばは他人のため」という言葉が印象深い。現在、50、51期は49期の指導の下、日々鍛錬に励んでいると思うが、これは自己のためであり、また、49期は政権となって、指導、運営の難しさに悩んでいると思うが、これは他人のためである。つまり、少林寺拳法を修行する上で、他人に教えるようになる立場になってはじめて一人前の拳士になることができるのだということである。下級生諸君は修行の中で厳しくてつらい時もあるとは思いますが、それを乗り越えてこそ立派な拳士になれるということを覚えていてほしい。また、そこで得たものを政権になった時にしっかり伝えられるように努力して行ってほしい。

最後に、師範、部長、監督、顧問、OBの方々や、同期、後輩達に感謝の意を込めて私の言葉とさせていただきます。

結手

人のつながり

49期 主将 房野 賢一

合掌

私たち49期が政権をとって、早いもので3ヶ月が過ぎようとしている。何を50期以下に伝えていくべきなのか、毎日試行錯誤である。防大少林寺としての伝統・誇り、茶帯、黒帯、団演、体力、精神力。しかし、最も大切にすべきなのは人と人、人のつながりであることを改めて強く感じた。上級生は自分に厳しく、下級生のことを親身になって考え、時には厳しく接し、下級生は上級生の姿を見て、精一杯ついていく。そして、練習が終わればそこには自然な笑顔がある、そして自ずと人が集まってくる。そんな部に私はしたいと思う。部としてその堅い結束があつてこそ、団演で最優秀も取れ、少林寺憲法を修行する意義があると思う。

我々49期はその為精一杯、精進、指導していきたいと思う。

結手

己を信じて

49期 副将 ター・ミン・タイン

合掌

日本で留学できるのは私にとってすごく幸せなことです。さらに防衛大学校に来て、少林寺と出会って、私の人生が変わった気がします。高校を卒業してベトナム士官学校に入った私は、ずっと勉強のことを集中して、部活もしなかったので体力はあまりなかった。そして、自信を持っていたかどうか分かりませんでした。防衛大学校少林寺拳法部に入ってたくましい仲間ができて、そして、一番の出来事は自分を信じて、自分の力で努力すれば何でもできる自信がつくことだと思っています。それは大事だと思います。

現在私は防衛大学校少林寺拳法の副将ですが歴代の副将のように特別な能力のある人間でもなく豪傑でもないのです、これからいろいろなことで悩み・苦しみがあるだろうと思っています。しかしながら、防衛大学校少林寺拳法部の伝統を築き、下級生を成長させるために努力したいです。政権になってから、下級生のこと・部活のことを考えるようになりました。どうすれば部の雰囲気よくなるか、下級生の練度をあげられるかずっと悩んでいます。確かに、人を指導するという事は難しいことで、それがクラブというひとつの物事にとってみても、実感としてよく理解できるものだと思います。そこで、クラブを運営していくなかで、その流れとしてまず方針をたて、諸々の計画をたて、最後に移すわけです。私たち49期政権は“人の質”というテーマを方針として、少林寺拳法を運営していくのですが、きつくても、忙しくても‘己を信じて’、同期団結を持って、下級生を面倒見てやります。

ところで、副将とは、あくまで主将の補佐であり、また、良き相談役でなくてはならない。そして、本来憎まれ役でもあり、憎まれることを恐れてはいけないのです。また、副将が時には鬼となったりするのも必要だと思っています。この一年間で、私は自分の信念をもって、後悔のない様一年間を頑張っていきます。

合掌

私にとっての少林寺拳法

50期 稲垣 孝洋

合掌

私が少林寺拳法を始めた理由は強くなりたかったからです。いろいろな武道、格闘技の中から少林寺拳法を選択したのは、父が少林寺拳法を修行しており、その話を聞いていて興味があったということが大きな理由です。

防衛大学校の少林寺拳法部は練習が厳しい面もあり、校友会の時間が近づくとゆううつになることもしばしばです。しかし、ひとたび練習が始まればその熱気、活気は練習のきつさを忘れさせてくれます。これほどよい雰囲気、こんなにも楽しくきつい練習をすることができる場所はそうないと思います。この、少林寺拳法部で全力を尽くした1日の終わり、一週間の最後には言葉には言い表せない満足感があります。このような感覚を味わうことができるのは何かを一生懸命にやった人だけだと思います。私が防衛大学校で少林寺拳法を修行しているのは肉体的、精神的に強くなるということに加えて、この部で学ぶことが将来必ず役に立つと思うからです。自分の過去を振り返った時に、自分でがんばったと思えることのあることが将来の自分を強くしてくれると思いますし、また、本当の幸せだと思います。そういう意味で、防衛大学校少林寺拳法部は最高だと思います。

結手

防衛大少林寺拳法部での教え

50期 松岡 晋

合掌

私は防衛大学に入校するまで武道をした経験は殆ど無く、まして少林寺拳法がどのようなものなのかということは全く知らなかった。しかし入部して以来、少林寺拳法の目的や本質を学ぶにつれてその奥の深さに驚いている。そして今では防衛大学の少林寺拳法部はその教え、例えば「自他共楽」・「自己確立」を体現していると考えられるようになった。普段

の練習で、あるいは大会を照準にすえた練習をしている際、自分の弱さに負けそうになる時がある。しかし自分一人が苦しいのではなく、周囲の同期も同じように、あるいは自分が感じている以上に苦しいのではないかと考えると、そこで踏みとどまることができる。相手がいるから、そして相手のことを考えることができるからこそお互いに成長できるという当たり前ではあるが大切な教えに気づかせてくれたのも、このような環境で練習ができるからである。今後もこの教訓を自分の中の糧とし練習に励んでいきたい。

結手

少林寺拳法に足を踏み入れて

熊田智徳

少林寺拳法に対し、何の予備知識もない人が少林寺拳法と聞くと、まず頭に思い浮かぶのが、中国でやっている「あれ」だろう。実際私もはじめに頭に浮かんだのが「あれ」だった。格闘技というよりも、曲芸に近い「あれ」を大学生活でやるには私には抵抗があった。しかし、諸事情により少林寺拳法部の見学に行ったところ、私は自分が思い違いをしていたことに気が付いた。総合体育館で行われていた少林寺拳法は、打撃と柔術の合わさったまさに「総合格闘技」であったのだ。私は気がつくやうに入部届けに判子を押していた。

その日以来、私は毎日充実した練習が送れている。未だに力に頼ってしまうが、少林寺拳法を知るにつれて、力だけが格闘の全てではないということに気が付き始めた。これからは、『脱パワー系』を目指し練習に励んでいきたいと思う。

平成 1 5 年度部員名簿

(平成 16 年 1 月 1 日現在)

期 別	小 隊	専攻	要員	氏 名
4 8 期	1 2 1	機械	陸	簀戸 俊一
	1 3 3	電子	陸	高橋 佳子
	3 1 1	機材	海	飯澤 直人
	3 2 1	機材	陸	安藤 由佳
	3 2 3	公政	陸	岩田 伸太郎
	4 1 1	国関	海	砂川 広樹
	4 1 1	航宇	陸	郡山 伸衛
	4 4 1	航宇	陸	小林 猛
	4 4 1	地球	陸	藤原 宏匡
	4 4 1	国関	陸	対比地 貴行
	4 4 2	航宇	海	廣神 敏
	4 4 3	国関	陸	米澤 剛
4 9 期	2 4 3	国関	陸	中山 智晴
	3 1 1	情報	陸	西川 尚紀
	3 1 1	情報	陸	タ・ミン・タイン
	3 4 3	情報	海	房野 賢一
	4 4 1	応物	陸	永田 忠義
5 0 期	1 1 2	情報	海	牛嶋 敬幸
	1 4 1	情報	空	樋口 哲士
	1 4 1	応化	海	鳥居 悠希
	1 4 1	情報	陸	山本 篤
	2 1 3	国関	空	稲垣 孝洋
	2 2 2	機材	空	藤井 貫志
	2 2 3	国関	陸	松岡 晋
	2 4 1	理工		山内 祐介
	4 1 1	航宇	陸	砂原 正法

51期	133	理工	養田 智宏
	141	理工	岡本 剛史
	141	理工	加藤 僚
	142	理工	阿部 哲也
	213	理工	徳永 竜磨
	222	理工	稲葉 雄一
	241	人社	島原 佑太
	243	理工	中川 成輔
	311	理工	坂東 正崇
	322	理工	林 康平
	323	理工	窪田 雅之
	331	理工	石川 貴之
	343	理工	木村 和史
	433	理工	増田 陽輔
	441	人社	鬼塚 勇
	441	人社	嘉悦 博仁
	442	人社	熊田 智徳
442	人社	寺田 浩昌	

平成 1 5 年度活動成果

期 間	行 事	場 所	大会等成果
5 月 4 日	関東学生大会	日本武道館	団体演武 最優秀 段外 優良
5 月 24 日	新入生歓迎行事	防衛大学校	新入部員数 1 9 名
6 月 7 日	農大他との合同練習	防衛大学校	
6 月 15 日	杉本杯		
6 月 22 日	慶応・早稲田大学との 合同練習	防衛大学校	
8 月 1 日 ～5 日	夏合宿	防衛大学校	
11 月 3 日	全日本学生大会	代々木体育館	団体演武 優良
11 月 15 日	全自衛隊大会	市ヶ谷駐屯地	三段以上 最優秀 初・二段 最優秀 段外 優良 単独段外 最優秀 団体演武 最優秀
11 月 16 日	横須賀三浦ブロック大会	県立保健福祉大 学体育館	男子段外 敢闘 男子有段 敢闘 単独一般 敢闘
11 月中旬	政権交代	防衛大学校	
1 月 13 日 ～16 日	寒稽古	防衛大学校	
2 月 7 日	少林寺拳法部OB杯	防衛大学校	
2 月 7 日	納会	セントラル ホテル	
3 月 25 日 ～29 日	春合宿	防衛大学校	

各大会個人成績

関東学生連盟大会(平成 15 年 5 月 4 日 : 日本武道館)

組演段外の部	敢闘賞	#50 鳥居悠希・#50 樋口哲士
組演段外の部	敢闘賞	#50 稲垣孝洋・#50 牛嶋敬幸
団体演武の部	最優秀	#48 対比地貴行・#48 飯澤直人 #48 岩田伸太郎・#48 #49 房野賢一・#49 中山智晴 #49 ター・ミン・タイン #49 西川尚紀

全日本学生大会(平成 15 年 10 月 5 日 : 日本武道館)

団体演武の部	優良	#48 対比地貴行・#48 岩田伸太郎 #49 房野賢一・#49 中山智晴 #49 西川尚紀・#49 永田忠義 #49 ター・ミン・タイン #50 牛嶋敬幸・#50 鳥居悠希 #50 稲垣孝洋・#50 山本篤 #50 山内祐介
--------	----	---

全自衛隊少林寺拳法大会(平成 15 年 11 月 15 日横須賀南部体育館)

男子三段以上の部	最優秀	323(4) 岩田伸太郎・441(4) 対比地貴行 444(4) 小林猛
男子初二段の部	最優秀	243(3) 中山智晴・343(3) 房野賢一
単独段外の部	最優秀	343(1) 木村和史・433(2) 対比地貴行
団体演武の部	最優秀	112(2) 牛嶋敬幸・141(2) 鳥居悠希 141(2) 樋口哲士・141(2) 山本篤 213(2) 稲垣孝洋・222(2) 藤井貫志 223(2) 松岡晋・241(1) 山内祐介 243(3) 中山智晴・311(3) 西川尚紀 411(2) 砂原正法・441(2) 永田忠義

横須賀三浦ブロック大会(平成 15 年 11 月 16 日県立保健福祉大学体育館)

組演段外の部	敢闘賞	141(1) 加藤僚・141(1) 岡本剛史 243(1) 島原佑太・433(1) 増田陽輔
男子有段の部	敢闘賞	133(1) 養田智宏・(1) 石川貴之
単独一般の部	敢闘賞	142(1) 安部哲也

平成16年度年間活動計画

期 間	行 事	場 所	備 考
4月中	全力勧誘期間		目標：25名
5月4日	関東学生大会	日本武道館	目標：団体演武最優秀
5月中旬	新入生歓迎行事	防衛大学校	
6月中旬	慶応・早稲田大学との 合同稽古	防衛大学校	
6月20日	昇段審査	藤沢翔陵高校	2・3・4年がそれぞれ受験
8月上旬 又は下旬	夏合宿	未 定	
8月中旬			
11月 7日	全日本学生大会	日本武道館	目標：団体演武最優秀
11月上旬	開校祭	防衛大学校	演武の披露
11月13日	全自衛隊大会	市ヶ谷	
時期未定	横須賀三浦ブロック大会	未定	
11月下旬	政権交代	防衛大学校	11月下旬
1月上旬	寒稽古	防衛大学校	1月上旬
2月中旬	OB杯演武大会・納会 OB総会	防衛大学校	2月中旬
3月下旬	春合宿	防衛大学校	3月下旬

*尚、各月一回を基準に師範日を予定

少林寺拳法部第49期政権編成

役 職	氏 名	所 属	要員・専攻
主 将	房野 賢一	3 4 1	海上・情報
副 将	ター・ミン・タイン	3 1 3	陸上・情報
統制長	中山 智晴	2 4 3	陸上・国関
道場長	永田 忠義	4 3 1	陸上・応物
主 務	西川 尚紀	3 1 1	陸上・情報
会 計	ター・ミン・タイン	3 1 3	陸上・情報
安 全	永田 忠義	4 3 1	陸上・応物
3年係	房野 賢一	3 4 1	海上・情報
2年係	中山 智晴	2 4 3	陸上・国関
2年係補佐	ター・ミン・タイン	3 1 3	陸上・情報
1年係	西川 尚紀	3 1 1	陸上・情報
1年係補佐	永田 忠義	4 3 1	陸上・応物
師範・本山・ OB係	永田 忠義	4 3 1	陸上・応物

奧平會報

巻 頭 言

奥平会会長 中原 勇

合掌

奥平会会員の皆様におかれましては、益々ご壮健にてご活躍のこととお慶び申し上げます。

昨今の国際情勢は大変厳しく、イラク戦争後の同国内における自爆テロ、無差別な襲撃なども沈静化する兆しは見られず、周辺諸国や世界各地でもテロとの戦いは継続しております。

わが国周辺では、北朝鮮の拉致問題、不審船問題、ミサイルや核開発問題等依然として厳しい情勢にあります。

このような情勢下において、昨年は、長年の懸案であった有事法制が武力攻撃事態対処関連3法として成立し、平成13年の米国同時多発テロ以降の防衛関連法の整備には目を見張るものがあります。

特に、イラク人道復興支援特措法の成立は、自衛隊が新たな時代に突入する大きな意義のあるものだと痛感しております。

自衛隊が初めてテロの脅威下で実任務を遂行する時代が到来した訳であり、自衛隊の真価を問われる正に歴史の転換点に当たるのではないのでしょうか。

テロやゲリ・コマとの戦いは、いわゆる「近接戦闘」であり、相手の目を見て戦うことができる真の戦士が求められる時代の到来です。

このような意味において、今正に、我々少林寺拳法経験者の出番が来たと言っても過言ではないと思います。奥平会の現役会員の皆様が、国内は勿論、国外においても大いに活躍されんことを心から祈念する次第です。

さて、防大少林寺拳法部の昨年の活動成果につきましては、関東学生大会において団体演武「最優秀」、全日本学生大会において団体演武「優良」ということであり、立派に伝統を受け継いでいております。3学年だけで団体演武を組むのが無理な現況にあって、このような「最優秀」等の成果であり、学生諸官の真摯な修行に敬意を表する次第です。引き続きの活躍を期待しております。

なお、今年度は、10期生が当時の奥平4大隊指導官のご指導の下、4大隊屋上や人文館屋上で少林寺拳法の修行を開始してから40年が経過し、防大少林寺拳法創設40周年を迎えます。10年節目の創設記念の行事が成功裡に開催できますよう、会員皆様のご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、会員並びにご家族皆様のご健勝とご多幸を祈念申し上げます、ご挨拶と致します。

結手

平成 1 5 年度奥平会活動概要

1 現役部員に対する支援

日常における学生に対する指導をおこなうとともに、夏季合宿、市民大会、全自衛隊大会、関東・全日本学生大会等への支援を実施致しました。細部は別紙第1「平成15年度奥平会活動成果報告」のとおりです。特に顧問の少ない中、事故もなく各種行事を乗り切れましたのも、OB・OGの方々のご多忙中にもかかわらず、大会等の応援に駆けつけてくださったお陰と感謝いたしております。来年度につきましてもできる限り大会等の予定を御連絡いたしますので、応援・ご支援のほどよろしく願います。

2 総会の実施

平成16年2月7日、防大において学生による「OB杯争奪乱捕り大会」に接続して平成15年度奥平会総会を開催しました。総会には21名の会員に参集をしていただきました。

総会では、活動報告及び会計報告を行ったほか、特別会費の徴収及び今後の奥平会活動、また、16年度の特徴である防衛大学校少林寺拳法部および奥平会創立40周年記念行事等について発議し、熱心に討議が行なわれました。出席いただいた会員の方々、ありがとうございました。

3 平成15年度会計報告

別紙第2「平成15年度奥平会決算報告書」を参照してください。

平成 1 6 年度奥平会活動予定

1 平成16年度奥平会活動内容

本年度、防衛大学校少林寺拳法部及び奥平会創立40周年を迎えます。これに伴い創立40周年記念行事を計画しております。その他の平成16年度奥平会活動予定については、別紙第3「平成16年度奥平会活動計画」を参照してください。

2 平成16年度奥平会予算

別紙第4「平成16年度奥平会予算計画」を参照してください

3 平成16年度奥平会本部

役 職	期 別	氏 名	連 絡 先
会長	14A	中原 勇	関西補給処長
副会長（市ヶ谷等）	17A	鈴木 陽	防衛研究所 8-75-6452
副会長兼総括幹事	29A	新保博徳	防衛大学校 8-40-3841
会計監査委員	17F	前田慎一	防衛大学校 8-40-3861
会計・広報	42A	井田輝彦	防衛大学校 8-40-3379
庶務	42A	徳永 亘	防衛大学校 8-40-3353

奥平会特別会費徴収結果及び来年度以降の見通しについて

防大奥平会会計係 2等陸尉 井田輝彦 (42期)

(1) 15年度の特別会費について

15年度から特別会費の納入についてお願いしましたが、おかげさまで、¥642,000もの会費を徴収することができました。この場を借りて篤くお礼申し上げます。

(2) 15年度の会計について

収入		支出	
前年度繰越金	¥1,364,821	14年度会報発行費	¥39,095
OB会費 (45期10名)	¥537,000	各種大会支援	¥196,000
特別会費	¥642,000	合宿支援	¥5,200
利息	¥2,305	学生活動支援	¥76,000
		技術向上支援	¥200,000
		奥平会運営及び活動費	¥169,547
合計	¥2,546,126	合計	¥685,842
残高(収入-支出)			¥1,860,284

本年度は、昨年度と比較いたしますと、約4万円多く支出しております。理由と致しましては、本年度におきましては、横須賀三浦ブロック支援金として36000円の支出があったためです。その他の支出に関しては例年どおりとなっております。また、今年度も技術向上支援金を縮小した分、新入生勧誘をはじめとする学生活動の支援に使用しました。

(3) 残高推移の試算

今年度の全般の支出は、昨年度の見積りでは約1,040,000円でありましたが、本年度の支出は685,842円となり、見積りよりも354,158円少なくなりました。理由は、15年夏に予定されていたアジア大会参加がなくなったということがあげられ、例年並の支出となり、年度当初の見積りよりは抑制された結果になりました。

来年度以降の奥平会費残高の推移は、一に現役部員の数、特に卒業部員の数に左右されます。現在(15年度)、部員数は1学年の新入部員恵まれたものの、4学年(49期)9名、3学年(50期)5名、2学年9(51期)名、1学年18(52期)名であり、まだ少ないと考えられます。これは仮に特別会費が無い場合で見積もるならば、今年度も68,1387円の赤字となるからです。つまり、奥平会会費の収入は純粋にOB会員として学生が終身会費(53700円)の倍数(部員数)で組まれているのに対し、年間概算予算執行が例年緊縮財政として行なった場合でも最低限70万円程度必要であることによります(別紙第5)。

この不足分を補填するため特別会費を徴収させていただいております。会計年度(1月～12月)の繰越金を不測事態に備え、活動費の2年分程度(120～140万)としておりますが今年度は多くのOBから特別会費の支援を頂き186万円の繰越をすることが可能となりま

した。しかしながら学生数を見ると収入不足の傾向は来年度以降も、しばらく継続されるものと思われます。このような状況に加え、今年度については、来年度（16年度）以降さらに検討すべき問題が生起いたしました。すなわち、学生が日常の乱捕り稽古で使用している防具の規格が、連盟によって変更されることになったのです。つまり、来年度以降昇段審査においてこれまで使用していた旧型の胴及びフェイスガードの使用が出来なくなり、早急に、新型フェイスガードを使用することが現場で日々練習に勤しんでいる学生にとり喫緊の課題となりました。連盟から新型使用の通達がきたのが15年8月であり、16年度開始までの期間が7ヶ月しかなかったため、練習に必要な10セット購入することとして代金約55万円をとりあえず奥平会として立替えました。この取扱いは総会で議論し学生への負担分とOB会支援分を16年度総会までに結論を出すことにしました。この結果、今年度の残金は約130万円となり、昨年度の残金と同程度となりました。本年度においては「立て替え」という形をとることが、総会にて承認されました。

(4) 対策

これまで申し上げましたように、今後も支出抑制の努力を継続するのは勿論のことですが、前項でも述べたようにこれ以上の活動経費の削減は極めて難しい状況です。15年度は、防大の監督等や4学年の努力により、部員の獲得は良好であり、新入部員は増加しました。この傾向を維持することが可能であれば、現在の1年生が卒業するころには特別会費を中止することが可能となると思われます。

しかしながら、卒業者数が来年度は5名、翌年度が9名と厳しい状況が続くため、今年度に引き続きH15年度も特別会費の納入をお願いすることになりました。この件に関しては、先の15年度総会において審議した結果、会則第6条に基づき、以下の通り会員から特別会費3000円を徴収することで承認されました。なお、徴収金額については賛同者数を考慮しつつ収入全体を見ながら今後も検討が必要と考えますが、今年度も同額をいただくことに致すことをご了解をお願い致します。

- 徴収方法・徴収額；各会員毎または各駐屯地・基地一括での郵便口座振り込みによる。
1人一口3000円
- 納入期限；決算を1月に行うため平成16年12月31日までをお願いいたします。
- 徴収期間；平成12年度から卒業生が14名以上に増加する年度までが目安となります。

註：振込みの際の住所は部誌の名簿に反映させていただきますので、記入していただきますようお願いいたします。また、期・駐屯地毎に御振込み願えればありがたいです。

少林寺拳法部及び奥平会創立40周年記念 行事について

平成16年度奥平会活動予定でもご案内いたしましたが、平成16年度は、防大少林寺拳法部および奥平会創立40周年を迎えます。これに伴い、記念行事を実施して、歴史を振り返りこれまでの部の実績をたたえるとともに今後の少林寺拳法部の発展を祈念したいと思います。平成16年2月7日（土）に、防大で実施された総会では、実行委員長の選出、実

施時期・場所の概定がなされました。奥平会会員の皆様の多くのご参加をお待ちいたしております。

- 1 実施日時：平成 16 年 12 月上旬（現時点では 11 日（土）を予定）
- 2 実施場所：市ヶ谷地区
- 3 その他：細部については防衛大学校少林寺拳法部により、逐次情報を掲載いたしますのでご覧下さい。HP:<http://www.nda.ac.jp/ed/syorinji/>

期連絡網について

1 主旨

奥平会の有効活用と活性化を図るとともに、会員の名簿を効率的に整理する。

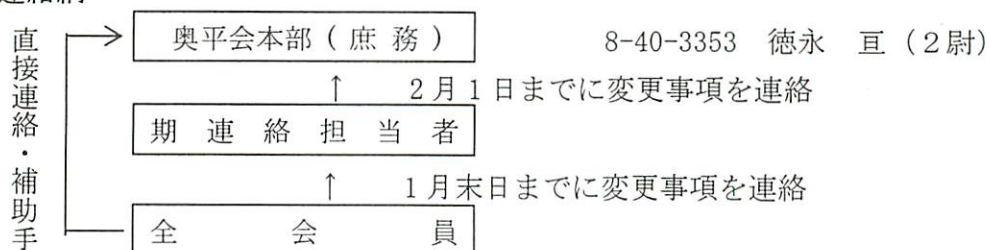
2 連絡の要領

- (1) 各期に 1 名、連絡担当者をおく。
- (2) 住所・所属等が変更になった場合、各人は毎年 1 月末日までに同期生の連絡担当者に連絡し、変更事項を告げる。
- (3) 連絡担当者は、年度の変更事項をまとめて毎年 2 月 1 日までに奥平会本部（防大庶務）に連絡する。
- (4) その他、会員の慶弔に関する事項については、各人ごと直接又は連絡担当者を通じて奥平会本部に連絡するものとする。

3 連絡担当者の指名

3 年を任期とし、次の担当者を期毎指名し、申し送るものとする（再任を妨げない）。

4 期連絡網



5 期連絡担当者

(16. 4. 1 現在)

10	10A	蔵田 弘明	退職	23	23A	日高 政広	市ヶ谷	36	36A	藤岡 忠生	秋田
11	11A	勝野 建朗	退職	24	24F	中館 利光	市ヶ谷	37	37N	高取 哲朗	厚木
12	12A	衛藤 利治	退職	25	25N	内山 哲也	呉	38	38A	奇藤 浩	板妻
13	13A	高本 俊之	退職	26	26F	福島 睦	市ヶ谷	39	39A	中村公多朗	土浦
14	14A	清水 重周	退職	27	27F	堀田 隆治	市ヶ谷	40	40A	上野 洋介	朝霞
15	15A	上杉 和壽	海田市	28	28A	湯浅 悟郎	市ヶ谷	41	41A	後藤 仁志	習志野
16	16A	富本 啓一	木更津	29	29A	甲斐 正人	岩手	42	42A	古賀 信之	千僧
17	17A	福澤 賢	霞ヶ浦	30	30A	福田 洋司	市ヶ谷	43	43A	廣瀬 繁	久里浜
18	18F	笠原 久	市ヶ谷	31	30N	迫田 浩文	江田島	44	44A	渡邊 俊明	川内
19	19A	屋久 俊郎	朝霞	32	32A	福重 毅尚	真駒内	45	45A	八木 新	旭川
20	20A	小林 実	朝霞	33	33N	町島 敏幸	市ヶ谷	46	46A	菊地 裕紀	那覇
21	21A	湖崎 隆	大久保	34	34A	竹内 博忠	市ヶ谷	47	47A	矢野 健一	
22	22A	松村 利宏	市ヶ谷	35	35A	戒田 重雄	市ヶ谷	48	48A	対比地貴行	前川原

連 絡 事 項

1 会員名簿の更新について

会員名簿につきまして所属等不明者は、空欄にしております。本人もしくはその所属等を知っておられる方、また記載内容の間違い等にお気づきの点がございましたら期連絡担当者又は防大本部庶務まで御連絡ください。なお、期担当連絡者から連絡がなかった期については、各人の所属等は防大同窓会及び昨年度のデータのうち最新のものを使用いたしました。

2 期連絡網について

期連絡網について別項のように設置していますので、会員の皆様におかれまして住所の変更等がありましたら期連絡担当者まで御連絡ください。

3 本部連絡先

防衛大学校理工学研究科 2等陸尉 徳永 亘
専用線 8-40-3353
局 線 0468-41-3811(3353)
e-mail g42007@nda.ac.jp

4 その他

- (1) 会員の慶弔がありましたら、期連絡担当者若しくは本部庶務まで、ご本人若しくは近傍の会員の方からご一報いただきますようお願いいたします。
- (2) インターネットの防大ホームページ (<http://www.nda.ac.jp/index-j.html>) に少林寺拳法部のホームページを開設いたしております。活動状況、成績等も逐次掲載しておりますので是非ご覧ください。

奥平会員名簿

1 奥平会名誉会員名簿

別紙第6「奥平会名誉会員名簿」をご覧ください。

2 奥平会員名簿

退職者についての細部の住所を知りたい方（奥平会員に限る）は奥平会総括幹事もしくは庶務にお尋ね下さい。その他については、別冊「奥平会員名簿」をご覧ください。

奥平会総括幹事 防衛大学校 新保博徳(8-40-3841)
奥平会庶務 防衛大学校 徳永 亘(8-40-3353)

平成 15 年度奥平会活動成果報告

1 少林寺拳法部活動指導

- (1) 学生活動時における、監督、指導態勢を強化した。
- (2) 各種活動に対し、防大所属会員により金銭的・人的支援を実施した。
- (3) 夏合宿、関東学生大会、全日本大会には近隣の会員からの激励、金銭的支援を受けた。
- (4) OB交流を通じて、昨年度に引き続き、合同練習対象校を拡大した。

2 横須賀・三浦ブロック活動参加

- (1) 月例会議参加（高取）
- (2) 11月16日：横須賀市民大会協力（競技進行係）
- (3) 11月16日：三崎先生との集い参加、支援
- (4) 合同練習

3 関東学生OB連合会活動参加

- (1) 5月4日：OB交流会参加（高取）
- (2) 6月15日：杉本記念合同練習会（高取）
- (3) 6月28日：関東学生OB連合総会（鈴木副会長）

4 校内活動

- (1) 政権・顧問合同会議（月1回基準）
- (2) ホームページの作成及び運営
- (3) OBの指導力の向上
 - ア 武道専門学校通学（高取、井田）
 - イ OBの自衛隊大会参加（高取）
 - ウ 支部長、道院長研修会（多度津、高取）
 - エ 本山合宿参加（高取、井田）

平成15年度奥平会決算報告書（平成15年1月1日～同年12月31日）

1. 収支報告

収入	
前年度繰越金	1,364,821
47期OB会費	537,000
OB特別会費	642,000
利息	2,305
小計	1,181,305
総計	2,546,126

支出	
大会支援金	
関東学生大会	50,000
全自衛隊大会	37,000
全日本学生大会	80,000
横須賀市民大会	29,000
小計	196,000
学生支援金	
春合宿支援金	0
夏合宿支援金	5,200
新入生獲得支援金	75,000
その他	1,000
小計	81,200
技術向上支援金(師範代)	200,000
その他	
立替金	534,850
奥平会運営費	
関東OB連合会関連	116,547
三浦ブロック関連	53,000
部誌発行関連	39,095
OB杯・慶事等	0
小計	208,642
総計	1,220,692

2. 残高報告

¥1,325,434 円

上記内容に異状ありません

平成15年度奥平会会計係

井田輝彦

3. 会計監査

厳正な監査の結果、会則に基づき適正に運営されていることを報告します。

会計監査委員

前田慎

※ 上記でいうところの「立替金」とはフェイスガード立替金のことである。

平成 16 年度奥平会活動計画

1 活動内容

(1) 部活動支援

金銭的・人的支援を継続して実施する。この際、臨時OB会費を有効に活用する。

(2) 横須賀・三浦ブロック活動参加

近隣支部との合同練習を活発に実施する。

(3) 関東学生OB連合会活動参加

懇親会を通じて交流のできた大学との合同練習機会を拡大する。(国際武道大と調整中)

(4) 校内活動

OBの部活動・練習参加は定着している。今後更にOB自身の技術向上を図り、積極的に指導・監督を実施する。

(5) 少林寺拳法部創立および奥平会創立 40 周年記念行事を開催する。

2 部の活動予定

「防大少林寺拳法部学生活動計画」参照

3 活動に当たっての重点事項

(1) 臨時OB会費徴収を卒業部員が当分の間継続する。(今年度見通し)

(2) 新入部員獲得に重点的な支援を行う。(金銭支援、勧誘活動支援)

(3) 指導に当たる4学年が5名であるので、OBが積極的に技術指導に当たる。

(4) OBの技術向上のため、武道専門学校への入学及び各種大会への参加を昨年度以上に推進する。

(5) 他駐屯地・基地からのOB支援・激励を積極的に得る。

(6) 計画的な人事要望を上申し、各幕と連携しながら、防大勤務OBの増加を図る。

(7) 期連絡網が有効に機能していないので、メールアドレスを含めた連絡網を再構築し、連絡体制の効率化・迅速化を図る。

平成16年度奥平会予算案（平成16年1月1日～同年12月31日）

1. 収支案

収入	
前年度繰越金	1,325,434
小計	1,325,434
48期OB会費	483,300
OB特別会費	600,000
その他	0
利息	4,000
小計	1,087,300
総計	2,412,734

支出	
大会支援金	
関東学生大会	50,000
全自衛隊大会	50,000
全日本学生大会	80,000
小計	180,000
学生支援金	
春合宿支援金	5,000
夏合宿支援金	10,000
新入生獲得支援金	60,000
小計	75,000
技術向上支援金(師範代)	200,000
奥平会運営費	
関東OB連合会関連	90,000
三浦ブロック関連	70,000
部誌発行関連	45,000
OB杯・慶事等	60,000
40周年記念行事支援金	100,000
小計	365,000
総計	820,000

2. 収支合計

¥1,592,734円

※ 収入において特別会費を本年度並に見積もるとともに、40周年記念行事支援金を計上している（いずれも総会において決議された）。

奥平会収支と特別会計

平成年度		11	12	13	14	15	16	17	18	備考
卒業期別		44	45	46	47	48	49	50	51	
A	卒業生数 人	10	6	4	7	9	5	9	18	51期は2学年
B	終身会費 5.3万/人 万円	53	32	21	37	48	27	48	95	
C	支援金+利息等 万円	3	1	1	1	0	0	0	0	
D	特別会費を除く 収入 (B+C) 万円	56	33	22	38	53	27	48	95	
E	活動経費 (実績) 万円	65	66	83	64	122	82	70	70	15年度は防具 立替
F	不足額 (D-E) 万円	-9	-33	-61	-26	-69	-56	-22	-25	
G	特別会費 (3千/人) 万円	0	45	30	34	64	60	60	0	16年度は仮置
H	特別会費 累計 (ΣG) 万円	0	45	75	110	174	234	294	-	
K	次年度繰越分 (I+F+G) 万円	148	160	129	137	132	137	174	200	

※ 52期以降14名以上になる場合は、特別会費の徴収は不要になると見積られる。

奥平会名誉会員名簿

(16.4.1 現在)

職名	氏名	現所属及び役職	連絡先
新部長	高橋信明	応用物理学科 教授	〒236-0045 横浜市金沢区釜利谷南 3-16-16 TEL 045-784-2339
師範	神田憲和	三多摩副道院 長 准範士6段	〒164-0003 中野区東中野 2-14-7 TEL 03-3363-6275
師範	頼富英武	少年工科学校 顧問 准範士6段	〒238-0315 横須賀市林 5-6-11 TEL 0468-56-7663
顧問	有賀敦	機能材料工学 科 講師	〒239-0814 横須賀市二葉 1-55 A-202 TEL 0468-44-0264
前部長	菅野等	副校長 応用化学科 教授	〒236-0042 横浜市金沢区釜利谷東 6丁目 34番 1-411 TEL 045-786-5877
元部長	丸川武志		〒120-0046 足立区小台 2-33-2 TEL 03-3919-5910
元顧問 (OB以外)	奥平正人 (奥平会名誉会長)		〒828-0044 豊前市小石原 392-3 TEL 0979-82-2287

別冊

奥平会員名簿

(平成16年4月1日現在)

期別	要員	氏名	基地等	所 属 部 隊 等	主将・副将・期連絡員
10	A	黒野 耐	退職	〒3300061埼玉県さいたま市浦和区	
10	A	三井 光夫	退職	〒1870022東京都小平市上水本元町	
10	A	松島 順一	退職	〒3510115埼玉県和光市新倉	
10	A	清水 篤男	退職	〒2630031千葉県千葉市稲毛東	
10	A	蔵田 弘明	退職	〒3440077埼玉県春日部市小湊	10期連絡員
10	F	出田 弘一	退職	〒8991403宮崎県児湯郡新富町	
10	F	鈴木 勝人	御逝去		
10	N	岡崎 昭一	退職	〒2150023川崎市麻生区	
11	A	坂元 正昭	退職	〒2710044松戸市西馬場	
11	A	勝野 建郎	退職	〒6640004兵庫県伊丹市東野	11期連絡員
11	A	須崎 了英	退職	〒8200712福岡県嘉穂郡筑穂町大分	
11	A	水野 照夫	退職	〒3470016埼玉県加須市花崎北	
11	A	田谷 俊之	退職		
11	A	廣岡 征夫	退職	〒1400013東京都品川区	
11	F	上田 勇作	退職	〒8900032鹿児島市西接	
11	F	清水 正睦	退職	〒3591132所沢市松ヶ丘	
11	F	藤田 尚	退職	〒1860026東京都府中市	
11	N	佐藤 正秀	退職	〒8930064鹿児島県鹿屋市西原	
11	N	渡辺 貞吉	退職	〒2440816横浜市戸塚区	
12	A	衛藤 利治	退職	〒8410002佐賀県鳥栖市柚比町	12期連絡員
12	A	新井 宏	御逝去		
12	F	田中 結治	退職	〒3501315埼玉県狭山市入曽	
12	F	野口 昭徳	退職	〒2701471千葉県船橋市小室町	
12	N	橋田 典幸	退職	〒7222102広島県因島市重井町	
12	N	佐藤 備凡	退職	〒2110041川崎市中原区	12期主将
12	N	津川 保夫	退職	〒7370054広島県庄原市上山田町	
13	A	西村 繁樹	防大	防大国防論教授	
13	A	戸田 勝秋	退職	〒4910074愛知県一宮市東島町	
13	A	益田 修	退職	〒8612101熊本県熊本市桜木	
13	A	石原 薩雄	退職	〒8611102熊本県菊池郡西合志町	
13	A	高本 俊之	退職	〒7012142岡山県岡山市玉柏	13期主将 13期連絡員
13	A	白石 克成	退職	〒3210132栃木県宇都宮市雀の宮	
13	F	松生 剛	退職	愛知県豊橋市富士見台	
14	A	赤瀬 良二	北千歳	第1特科団副団長	
14	A	清水 直正	相馬原	相馬駐屯地業務隊長	
14	A	中原 勇	宇治	関西補給処長	14期副将 奥平会会長
14	A	清水 重周	退職	〒2900155千葉県市原市番場	14期連絡員
14	A	原田 敏男	退職	〒7541241吉敷郡阿知須町浜表	
14	A	斎藤 正精	退職	〒2270033神奈川県横浜市青葉区	
14	F	高須 好美	退職	〒4460073愛知県安城市篠目町	14期主将
14	F	今井 岸夫	退職	〒7190234浅口郡鴨方町益坂	
14	N	森田 則広	御逝去		
15	A	古川 照久	市ヶ谷A	情報保全隊	
15	A	大竹 義信	退職		
15	A	花房 晃夫	退職	〒8610115熊本県鹿本郡植木町米塚	15期主将
15	A	野間口 光男	退職	〒8910103鹿児島県鹿児島市皇徳寺台	
15	A	遠田 雅美	退職		
15	A	井口 昌之	退職		
15	A	安村 幸次	退職	横浜防衛施設局事業部	
15	A	岡 隆	退職	〒1750084東京都板橋区	
15	A	加藤 三千夫	富士	開発実験団 装備実験隊長	
15	A	土居 良治	退職		
15	A	長舩 敬天	福知山	福知山駐屯地業務隊長	
15	A	奥野 耕三	退職		
15	A	三嶋 利克	退職		
15	A	上杉 和壽	海田市	海田市駐屯地業務隊長	15期連絡員
15	F	島田 徹	浜松	教材整備隊司令	
15	F	福嶋 健司	春日	西空司令部監察官	
15	N	今村 修二	佐世保崎辺	佐警司令	
15	N	山崎 富雄	退職	〒2330006神奈川県横浜市南区	
15	N	中島 栄一	目黒	海上自衛隊幹部学校長	
15	N	山下 啓介	退職	〒2350024神奈川県横浜市磯子区	
16	A	富本 啓一	木更津	第1ヘリ団長	16期副将・連絡員
16	A	平川 真土	目黒	陸幹部学校教育部	
16	A	佐々木 二郎	小平	小平学校	
16	A	内山 晃	小平	小平学校	
16	A	芦岡 広明	十条	補給統制本部航空部長	16期主将
16	A	斎藤 健治	退職	別府業務隊 (退職)	
16	A	岡田 正一	退職	中部方面指揮所訓練支援隊 (退職)	
16	A	竹内 準一	退職		
16	F	小笠原 猛	退職	〒7360082広島県広島市安芸区船越	
16	F	八木 橋 享	御逝去		
16	N	阿部 哲夫	船越	指揮通信開発隊司令	
16	N	福島 一夫	御逝去		
17	A	吉川 雄二	市ヶ谷A	技術研究本部第3研究所	
17	A	小坂 正志	市ヶ谷A	会計監査隊本部	
17	A	飯島 定雄	市ヶ谷A	契約本部 (横浜)	
17	A	廣瀬 誠	市ヶ谷A	陸上幕僚監部教育訓練部長	
17	A	鈴木 陽	目黒	防衛研究所 副所長	奥平会副会長
17	A	佐藤 吉信	北宇都宮	航空学校宇都宮分校長	
17	A	村田 芳次	小平	小平学校 システム教育部	
17	A	中尾 吉幸	市ヶ谷A	中央業務支援隊総務部長	
17	A	富安 久芳	相浦	相浦駐屯地業務隊長	17期副将
17	A	小池 保治	福岡	4師団司令部 副師団長	
17	A	福澤 賢	霞ヶ浦	関東補給処総務部長	17期連絡員
17	A	荒木 正廣	健軍	西部方面総監部陸連絡官	
17	A	高橋 輝正	退職	〒1930816東京都八王子市大楽寺町	
17	F	稲見 潔	木更津	1補 整備部長	
17	F	磯野 茂樹	百里	偵空副司令	
17	F	石渡 幹生	十条	契約本部東京支部長	
17	F	永富 信吉	壘城	第8航空団 事故調査部長	
17	F	西岡 義博	入間	第2補給本部 業務部長	
17	F	松田 清明	那覇	南混司 装備部 計画課	
17	F	細田 敏夫	退職		
17	F	前田 慎一	防大	防大国防論教授	
17	F	山本 剛	退職		
17	F	澤 博海	退職		17期主将
17	N	塔岡 道夫	舞鶴	舞鶴 指隊副長兼指導部長	17期副将
17	N	久和 清幸	横須賀	自衛艦隊司令部	
17	N	西嶋 正幹	退職	〒9813362黒川郡富谷町日吉台	
18	A	安藤 恒夫	宇都宮	宇都宮業務隊	
18	A	中島 仁文	健軍	西部方面総監部人事課	
18	A	大西 正俊	市ヶ谷A	陸上幕僚監部装備部部長	
18	A	駄澤 章雄	東千歳	北部方面指揮所訓練支援隊副隊長	

期別	要員	氏名	基地等	所 属 部 隊 等	主 持 ・ 副 将 ・ 期 連 絡 員
18	A	宮田 秀二	北宇都宮	航空学校宇都宮分校	
18	A	川原 彰	武山	少年工科学校	
18	A	首藤 敬明	松戸	齋品学校	
18	A	紫村 敬二	東立川	中央地理隊長	
18	A	上田 正文	立川	立川業務隊長	
18	A	工藤 重見	十条	補給統制本部	
18	A	門野 睦廣	久里浜	通信学校 総務部長	
18	A	千原 和人	松戸	齋品学校 教育部長	
18	A	河野 基春	健軍	九州補給処 (健軍)	
18	A	渡辺 義幸	目達原	九州補給処 総務部長	
18	F	長尾 齋	三沢	管制群司令	18期副将
18	F	笠原 久	市ヶ谷F	情本	18期連絡員
18	F	勘米 良幸一	磯辺去		18期主将
18	F	白敷 裕樹	退職	〒6150883京都市右京区	
18	N	近藤 清司	那覇	9空司令	
18	N	平原 誠	舞鶴	舞鶴航空基地隊	
18	N	松井 博	市ヶ谷N	統合幕僚会議事務局	
18	N	岩淵 秀樹	佐世保	第62護衛隊	
19	A	津留崎 清宝	山梨	山梨地方連絡部副長	
19	A	園部 武典	市ヶ谷A	陸上幕僚監部 調査部調査課	19期副将
19	A	三星 忠正	仙台	東北方面調査隊	
19	A	前之園 敏雄	霞ヶ浦	関東補給処	19期主将
19	A	屋久 俊郎	朝霞	東部方面総監部 防衛部運用室運用係長	19期連絡員
19	A	青柳 忍	朝霞	東部方面総監部 監察官室	
19	A	野村 俊朗	新島	技本 新島場長	
19	A	迫田 直心	目達原	九州補給処	
19	A	廣瀬 和紀	小倉	第40普通科連隊副連隊長	
19	A	東 光博	退職	〒2790026千葉県浦安市弁天	
19	A	古庄 和裕	健軍	西部方面総監部 総務部 広報室長	
19	F	田中 秀明	三沢	警空1整備司令	
19	F	郷田 進		航空システム隊保監群司令	
19	F	松下 睦裕	十条	補給本部計画部長	
19	F	藤井 和弥	百里	第7航空団 整備補給群司令	
19	F	吉本 博	小松	第6空団司令部 装備部	
19	F	磯 光三	十条	契約本部東京支部府中主任検査官	
19	F	小曲 一之	立川	航空安全管理隊	
19	F	園山 栄一	退職	米国在住	19期副将
19	F	杉山 昌宏	退職	〒2440801神奈川県横浜市戸塚区	
19	N	松山 守秀	福井	福井地連部長	
20	A	山形 克己	札幌	北部方面総監部 装備部長	
20	A	仲原 久晃	横浜	契約本部 (横浜)	20期主将
20	A	半澤 康司	市ヶ谷A	情報本部	20期副将
20	A	楠本 裕幸	川西	中方指揮訓練隊長	
20	A	榎 喜隆	久里浜	通信学校第2教育部長	
20	A	高岡 正明	高田	第2施設副群長	20期副将
20	A	小林 実	朝霞	研究本部 第4研究科11研究室	20期連絡員
20	A	浅原 昭夫	霞ヶ浦	航空学校霞ヶ浦分校	
20	A	伏木 亨	十条	補給統制本部	
20	A	馬場崎 修	退職	〒1840011東京都小金井市東町	
20	F	南園 安	目黒	航空自衛隊 幹部学校	
20	F	田中 和之		北部防管群司令	
20	F	高林 久	府中	総隊研究室長	
20	F	岳川 清美	府中	防指群	
20	F	石田 裕		空シス隊シス管司令	
20	F	岸本 昌文	退職	〒4800146丹羽郡大口町余野	
20	N	木村 孝彦	下総	第203整備補給隊	
21	A	高橋 久泰	青森	第9後方支援連隊副連隊長	
21	A	桑原 幹夫	桂	関西補給処総務部長	
21	A	湖崎 隆	大久保	4施設団長	21期連絡員
21	A	加藤 隆	札幌	札幌地方連絡部	
21	A	澤井 研次	北恵庭	北恵庭駐屯地業務隊長	
21	A	野中 敏治	磯辺去		
21	A	花田 一志	仙台	東北方面情報保全隊	
21	A	浜崎 勝	大宮	化学学校	
21	A	園田 郁夫	姫路	第3特科連隊長	
21	A	大谷 昭次郎	富士	富士学校教官	
21	A	渡部 誠	富士	開実団 装実隊	
21	A	貴志 倫生	伊丹	中部方面総監部 装備部	
21	F	松本 修司	佐渡	中警団46警戒隊長	
21	F	真田 雅章	府中	航空自衛隊 総隊	
21	F	平本 雅行	熊谷	第4術科学校	
21	F	沼田 幸男	木更津	1補	
21	F	木山 幸保	十条	補本 計画部 補給課	
21	F	廣江 勝馬	美保	第3輸空隊基地業務群司令	
21	F	杉本 弥行	十条	補本	
21	F	朱 永武	留学生	シンガポール在住	
21	F	鍋島 和史	退職		21期副将
21	F	黒澤 豊彦	那覇	南混団	21期主将
21	N	笹島 (城山) 宏	退職	〒3100912茨城県水戸市見川	
21	N	福岡 誠	舞鶴松ヶ崎	舞鶴教総務科長	
21	N	村田 隆齊	舞鶴	みょうこう艦長	
21	N	山口 次郎	小松島	小松島航空隊	21期副将
22	A	野口 利保	島松	北海道補給処 装備計画部 企画課長	22期副将
22	A	財城 昭彦	福知山	第7普通科連隊長	
22	A	永栄 文晴	市ヶ谷A	陸幕装備部航空機課長	
22	A	吉岡 聖二	勝田	施設学校教育部長	22期主将
22	A	松本 俊二	美幌	第101特科大隊長	
22	A	原田 有繁	札幌	北部方面総監部 総務部	
22	A	松村 利宏	市ヶ谷A	陸上幕僚監部防衛部防衛課	22期連絡員
22	A	大本 健吾	小平	小平学校	
22	A	島松 正一	飯塚	第3高射特科群 副群長	
23	A	浦川 平次	千葉	自衛隊千葉地方連絡部 募集課長	
22	F	永瀧 盛重	十条	補本	
22	F	野村 勝廣	十条	補本	
22	F	堂込 勝也	入間	1高群副司令	22期副将
22	F	酒井 伸	小松	6空団	
22	F	木戸 文夫	入間	空救団司令部 防衛部	
22	F	横手 裕明	市ヶ谷F	情本	
22	F	小関 信宏	市ヶ谷F	統幕3室	
22	N	塚田 真司	市ヶ谷N	内局 (防衛)	
22	N	延近 保生	厚木	航空集団幕僚	
22	N	高塚 裕幸	市ヶ谷N	統幕 (特)	
22	N	中谷 茂	江田島	1術校 第2教育部長	
22	N	坊垣 内広明	退職	〒2320061横浜市南区	

期別	要員	氏名	基地等	所 属 部 隊 等	主将・副将・期連絡員
23	A	丸山 和宏	東千歳	北部方面指揮所訓練支援隊	
23	A	若杉 治徳	東千歳	東千歳GSVC	
23	A	岩田 清文	市ヶ谷A	陸上幕僚監部 装備部装備計画課長	
23	A	谷崎 敏弘	名寄	第3普通科連隊副連隊長	
23	A	日高 政広	市ヶ谷A	陸幕人事部厚生課長	23期連絡員
23	A	奥野 和男	横浜	中央輸送業務隊本部	
23	A	三木 元秀	久里浜	中央野外通信群副群長	
23	A	廣塚 雅史	東千歳	7師団4部長	23期主将
23	F	松尾 茂	岐阜	飛行開発実験団 電子技術隊長	
23	F	池邊 正	那覇	南西防空管制群司令	
23	F	宮田 義章	府中	航空総隊司令部 装備部 輸送班長	23期副将
23	F	シナロン	留学生	タイ王国在住	
23	F	川添 一正	退職	〒8900073鹿児島県鹿児島市宇宙	
23	F	馬谷 誠二	退職	〒5810025大阪府八尾市天王寺屋	
23	N	山下 啓治	市ヶ谷N	上智大修士課程 (歴史学)	
23	N	教野 謙一	横須賀	しもきた	
23	N	井ノ久保雄三	市ヶ谷N	海上幕僚総監部 防衛部 運用室長	
23	N	四元 和生	目黒	海上自衛隊幹部学校教官	
23	N	井口 義定	市ヶ谷N	海上幕僚監部監察官室	23期副将
23	N	畑中 孝行	市ヶ谷N	海上幕僚監部 防衛部 運用課	
24	A	芹川 慎介	札幌	北部方面総監部 調査部	
24	A	太田 尚志	練馬	第1後方支援連隊長	24期副将
24	A	堀之内 誠	小平	小平学校	
24	A	大久保和美	富士	富士学校 普通科部	
24	A	西津 謙	千歳	兵庫地方連絡部	
24	A	山田 雅巳	伊丹	中部方面総監部 人事部	
24	A	洲 靖隆	伊丹	中部方面総監部 装備部	
24	A	稲葉 貞志	市ヶ谷A	陸上幕僚監部 防衛部 運用課	
24	A	金田 辰美	市ヶ谷A	契約本部 (本部)	
24	A	山川 純次	市ヶ谷A	陸上幕僚監部 装備部 開発課 総括班長	
24	A	浅野 博義	市ヶ谷A	統幕 (3室)	
24	A	中村 健蔵	市ヶ谷A	技術研究本部 企画室	
24	A	高澤 慎司	退職		
24	A	常田 義則	退職		
24	F	出口 潔	浜松	教育集団人事課長	24期主将
24	F	中館 利光	市ヶ谷F	契約本部 契約管理第4課 誘導武器室	24期連絡員
24	F	佐藤 秀幸	市ヶ谷F	航空幕僚監部 演習・検閲班長	
24	F	清水 尚志	木更津	1補 東支	
24	F	藤城 希恭	府中	航空総隊司令部 防衛部 運用課	
24	F	山田 眞一	芦屋	13教団	
24	N	佐伯 泰啓	横須賀	はるさめ	
24	N	小川 勝志	横須賀	なるしお	
24	N	中村 早速	余市	第1ミサイル隊司令	
24	N	山本 浩	退職		
24	N	松田 俊宏	退職		24期副将
24	N	長谷川 隆	退職		
25	A	田草川茂人	伊丹	中部方面総監部 厚生課長	25期副将
25	A	大内 元	東千歳	第7師団司令部 第4部長	
25	A	岡元 正一	仙台	東北補給処	
25	A	石川 哲也	練馬	第1師団司令部 法務官	
25	A	小野寺 靖	朝霞	研究本部	
25	A	佐伯 義次	富士	富士学校 普通科部	
25	A	重石 義幸	旭川	2師団 3部長	
25	A	小菅 康雄	富士	開発実験団 総務部	
25	A	若本 順二	千歳	第3師団司令部 総務課	
25	F	安芸 一	市ヶ谷F	航空幕僚監部 人事教育部 厚生班長	
25	F	坂本 卓己	市ヶ谷F	航空幕僚監部 整備1班長	25期副将
25	F	藤吉 恵一	入間	3補	
25	F	尾崎 信朗	十条	83空 整備群 装備隊	
25	N	高島 修	十条	補本	
25	N	内山 哲也	呉	第4護衛群幕僚	25期主将 連絡員
25	N	杉原 耕二	市ヶ谷N	海上幕僚監部 人事教育部 人事教育課	
25	N	龍谷 貴年	呉	潜訓教育科長	
25	N	河村 正雄	呉	第22護衛隊司令	
26	A	内海 浩	丘珠	北部方面航空野整備隊	
26	A	河原 敏和	退職		
26	A	小野 長門	退職		
26	A	瀧沢 由則	退職		
26	A	中村 明弘	退職		
26	A	及川 幸夫	留萌	第26普通科連隊	
26	A	友部 隆	美幌	第6普通科連隊 本部及び本部管理中隊	
26	A	松田 正行	札幌	北部方面隊調査部	
26	A	金子 寿弥	市ヶ谷A	防衛庁防衛局	
26	A	吉田 英紀	船岡	第2施設団 本部及び本部付隊	
26	A	吉田 吉宏	船岡	第11施設群 本部中隊	
26	A	坂野 佳彦	小平	小平学校	
26	A	山下 清隆	千歳	第3高射大隊長	
26	A	谷 俊彦	伊丹	中部方面総監部 防衛部	
26	A	石山 暁	朝霞	東部方面総監部 情報保全隊	
26	A	石川 毅	朝霞	研究本部	
26	F	米子 誠二	十条	補本	
26	F	池島 暢也	入間	4補	26期副将
26	F	澤木 優輔	退職		
26	F	福島 睦	市ヶ谷F	航空幕僚管理監部 班長	26期連絡員
26	F	星川 敦	百里	偵察航空隊 整備群 整備主任	
26	N	市坪 秀明		まきなみぎ	
26	N	相良 達也	市ヶ谷N	海上幕僚監部 人事部 厚生課	
26	N	道満 誠一	市ヶ谷N	海上幕僚監部 人事教育部 教育班長	26期主将
26	N	佐藤 寿紀	市ヶ谷N	海上幕僚監部 人事教育部 学校班長	
26	N	杉山 義和	佐世保	第2補隊司令	26期副将
26	N	水野 伸彦	市ヶ谷N	海上幕僚監部	
26	N	上野 真一郎	厚本	第51航空隊	
26	N	平野 勝	舞鶴	舞鶴地方総監部	
27	A	濱田 秀	目黒	防衛研究所	
27	A	米山多佳志	東千歳	第7師団司令部 第2部長	
27	A	行事 正	富士	開発実験団 装備実験隊	
27	A	津田 浩司	健軍	西部方面総監部 人事部	
27	A	大場基美雄	目黒	陸自幹部学校	
27	A	角南 良治	市ヶ谷A	陸幕 教訓部 訓練・演習班長	
27	A	舞原 博巳	久里浜	通信学校	
27	A	山之上哲郎	朝霞	研究本部	
27	A	大居 一之	市ヶ谷A	技術研究本部 (陸付)	
27	A	大石 隆一	市ヶ谷A	情報保全隊本部付	
27	A	長合 友造	目黒	統幕学校学生	

期別	要員	氏名	基地等	所 属 部 隊 等	主将・副将・期連絡員
27	A	緒方 禎浩	御遊志		27期副将
27	A	川村 治彦	退職		27期主将
27	A	馬場 政和	退職		
27	F	西山 利昭	退職		
27	F	蔵田 衛人	退職		
27	F	沢村 徹	退職		27期副将
27	F	元木 啓嗣	新田原	5空団	
27	F	堀田 隆治	市ヶ谷F	空幕 人事教育課 個人訓練班長	27期連絡員
27	F	足立 謙聡	入間	航空救難団 団司令部 防衛部	
27	F	高野 宗治	目黒	航空幕僚監部 装備体系課	
27	F	甲斐 新太	岐阜	飛行開発実験団	
27	F	兼古 修	那覇	南混団	
27	N	益田 徹也	市ヶ谷N	外務省出向(ロシア)	
27	N	葵口 俊介	目黒	統幕学校学生	
27	N	山田 洋士	厚木	51空	
27	N	小川 昌宏	船越	海上自衛隊第2術科学校	
27	N	五領 隆男	呉	第1潜水隊群司令部	
27	N	中里 巧	退職		
28	A	足立 哲彦	市ヶ谷A	陸上幕僚監部 装備部 装計	
28	A	岡澤 武彦	市ヶ谷A	技本 陸開 新戦車準備室	
28	A	北原 秀章	市ヶ谷A	陸幕 調査部付(ミャンマー)	
28	A	矢野 光宏	目黒	陸自幹部学校 AGS学生	28期副将
28	A	永井 大介	退職		
28	A	越水 達哉	退職		
28	A	吉田 正人	退職		
28	A	畦地 勇	退職		
28	A	鶴見 耕市	退職		
28	A	湯浅 悟郎	市ヶ谷A	陸幕 補任課	28期主将 連絡員
28	A	藤原 修	名寄	第2偵察隊長	
28	A	日高 信行	帯広	第4普通科連隊	
28	A	古賀 敬明	北熊本	第8特科連隊3大隊長	
28	A	三好 邦夫	守山	第10師団司令部	
28	A	幸野 英明	健康	西部方面總監部 防衛部防衛班長	
28	F	白水 裕人	浜松	警戒航空隊 空管隊長	
28	F	今井 邦夫	十条	補給統制本部 計画部 企画課	
28	F	山田 顕嗣	防府北	12教団	
28	F	末廣 勝己	市ヶ谷F	航空幕僚監部 援護業務課 援護班	
28	F	堀米 浩章	市ヶ谷F	統合幕僚会議 3室運用1班	
28	F	神山 隆	退職		
28	F	米田 健二	退職		
28	N	内田 公明	市ヶ谷N	海上幕僚監部 装備部 艦船課	
28	N	上野 清昭	目黒	幹部学校(陸上自衛隊幹部高級課程)	
28	N	竹本 直忠	横須賀	たかなみ副長	
28	N	河津 稔	舞鶴	第4術科学校	
28	N	西小路 謙	退職		28期副将
28	N	中川 勝也	退職		
28	N	平島 一	退職		
28	N	鈴木 巧	退職		
29	A	古田 清梧	目黒	陸自幹部学校AGS学生	
29	A	甲斐 正人	岩手	第6高射大隊長	29期連絡員
29	A	水上 義仁	市ヶ谷A	システム管理運営隊長	
29	A	大川 浩史	習志野	第1空挺団普通科群	29期副将
29	A	谷 拓弥	市ヶ谷A	陸上幕僚監部 調査部 調査課	
29	A	立林 剛	椎内	第301沿岸監視隊長	29期副将
29	A	松岡 恭一	退職		
29	A	坂井 辰也	退職		29期主将
29	A	青柳 光	退職		
29	A	川上 和美	退職		
29	A	浅川 玉樹	退職		
29	A	託摩 安廣	退職		
29	A	中村 浩之	帯広	第5高射特科大隊長	
29	A	古川 靖人	仙台	東北方面總監部 装備部	
29	A	新保 博徳	防大	防衛大学校防衛学教育群	
29	A	駒井 紀美彦	伊丹	中部方面總監部 装備部	
29	A	津田 芳明	十条	補給統制本部	
29	A	蛭原 良雄	十条	補給統制本部	
29	A	鈴木 総一郎	御遊志		
29	F	熊田 原 修	小牧	1輸空隊	
29	F	西村 政恭	十条	補本付	
29	F	高松 実	目黒	航空自衛隊幹部学校	
29	N	宮田 敏邦	横須賀	しらね	
29	N	山崎 浩一	市ヶ谷N	海上幕僚監部 総務課	
29	N	柏木 均	久里浜	潜水医療実験隊	
29	N	佐竹 右幾	退職		
29	N	小屋敷 秀彦	退職		
30	A	龜山 淳	金沢	第14普通科連隊	
30	A	宮本 善弘	高遊原	第8飛行隊長	
30	A	山口 芳正	朝霞	東部方面總監部 防衛部	
30	A	菅野 俊夫	市ヶ谷A	陸上幕僚監部 装備部 開発課	
30	A	池永 博和	市ヶ谷A	情報本部	30期副将
30	A	土屋 甲吉	市ヶ谷A	陸上幕僚監部 訓練部 教育課	
30	A	福田 洋司	市ヶ谷A	陸上幕僚監部 総務課	30期主将 連絡員
30	A	笠島 広文	退職		
30	A	魚躬 治晴	退職		
30	A	松岡 恭一	退職		
30	A	船津 達男	退職		
30	A	中井 馨	退職		
30	A	岩熊 真司	大宮	化学学校	
30	A	魚住 晴康	練馬	1師団司令部(3部)	
30	A	林 宏幸	市ヶ谷A	情報本部	
30	A	中森 雅美	札幌	札幌地方連絡部 募集課長	
30	A	西 良典	朝霞	研究本部	
30	A	中村 大助	朝霞	東部方面總監部 防衛部	
30	A	矢納 裕二	朝霞	研究本部	
30	A	中川 洋行	霞ヶ浦	航空学校霞ヶ浦分校	
30	F	栗田 尚幸	御遊志		
30	F	後藤 豊	退職		
30	F	黒田 健一	退職		
30	F	西本 彰雅	浜松	中警団	
30	F	吉田 憲司	市ヶ谷F	中央業務隊付	
30	F	橋爪 猛	浜松	3空団	30期副将
30	F	高橋 親敏	春日	西空	
30	N	湯浅 秀樹	目黒	防衛研究所	
30	N	百崎 邦彦	呉	練習艦隊司令部	

期別	要員	氏名	基地等	所 属 部 隊 等	主 持・副 持・期 連 絡 員
30	N	時久 寛司	鹿屋	第1整備補給隊	
30	N	鈴木 達雄	退職		
31	A	亀山 慎二	市ヶ谷A	陸幕 教訓部 教育課	31期副持
31	A	石丸 威司	市ヶ谷A	陸幕 防衛部 研究課	
31	A	中川 博英	青森	第9補給隊長	
31	A	椎野 健治	市ヶ谷A	陸上幕僚監部 人事部 人事計画課	
31	A	田口 直志	市ヶ谷A	陸上幕僚監部 装備部 武器課	
31	A	藤岡 登志樹	市ヶ谷A	陸上幕僚監部 防衛部 防衛課	
31	A	佐野 光	市ヶ谷A	陸幕 調査部 調査	
31	A	松井 健一	富士	開発実験団 装備実験隊	
31	A	吉武 辰明	春日井	第10後方支援連隊 輸送隊長	31期主将
31	A	久保 敏浩	千僧	第3後方支援連隊	
31	A	辻 政幸	青野原	309高射中隊長	
31	A	橋本 哲彰	市ヶ谷A	統幕(3幕)	
31	A	池ノ本 八郎	与座	107高射直接支援隊長	
31	A	久富 博幸	退職		
31	A	大島 龍一郎	退職		
31	A	辰巳 竜悟	退職		
31	F	阿部 博文	目黒	幹部学校付	
31	F	北村 克晶	浜松	2衛校	
31	F	野沢 隆一	市ヶ谷F	航空幕僚監部 防衛課	31期副持
31	F	渡澤 寛	三沢	北空	
31	F	近藤 良彦	築城	8空団	
31	F	小南 良人	御遊去		
31	N	迫田 浩文	江田島	第1術科学校 教官	31期連絡員
31	N	岡田 岳司	江田島	第1術科学校 教官	
31	N	久保田 修一	佐世保	こんごう 船務長	
31	N	甲斐 義博	市ヶ谷N	海上幕僚監部 補任課	
31	N	蝦名 伸治	市ヶ谷N	情報本部	
31	N	大井 史	市ヶ谷N	海上幕僚監部 防衛部	
32	A	境 孝明	市ヶ谷A	陸上幕僚監部 監理部 総務課	
32	A	山地 伸一	市ヶ谷A	3次チモール施設群	
32	A	小田 益男	札幌	北部方面総監部 防衛部	
32	A	上山 聡	市ヶ谷A	情報本部	
32	A	川崎 誠二	市ヶ谷A	陸上幕僚監部 防衛部 研究課	
32	A	大塚 裕治	市ヶ谷A	陸上幕僚監部 監理部 会計課	32期主将
32	A	竹内 利治	市ヶ谷A	陸上幕僚監部付(海上自衛隊201教航隊)	
32	A	中村 裕亮	市ヶ谷A	陸上幕僚監部 防衛部 運用課	
32	A	福重 毅尚	真駒内	第11戦車大隊長	32期連絡員
32	A	平田 雄嗣	市ヶ谷A	陸上幕僚監部防衛部運用課	32期副持
32	A	大塚 和也	朝霞	研究本部	
32	A	福元 昌二	北熊本	第8特科連隊	
32	A	更工 雅彦	退職		
32	A	市来 道啓	退職		
32	A	小原 真二	退職		
32	A	神保 俊昭	退職		
32	A	田口 芳郎	退職		
32	F	高橋 秀雄	目黒	幹部学校付	32期副持
32	F	渡部 誠	岐阜	飛行実験団	
32	F	鈴木 憲	市ヶ谷F	航空幕僚監部 教育課	
32	F	山口 直人	市ヶ谷F	航空幕僚監部 運用課	
32	F	植村 茂己	市ヶ谷F	航空幕僚監部 教育課	
32	N	河上 康博	市ヶ谷N	海上幕僚監部 人事1課	
32	N	後藤 幸英	退職		
32	N	松尾 研志	退職		
32	N	澤本 武朝	退職		
33	A	柿野 忠嗣	市ヶ谷A	陸上幕僚監部 装備部 武器・化学課	
33	A	山本 真也	市ヶ谷A	陸上幕僚監部 装備部 施設課	
33	A	大津 勝利	市ヶ谷A	陸幕 人事部 援護業務課	
33	A	谷口 喜一郎	市ヶ谷A	陸上幕僚監部 防衛部	33期副持
33	A	池田 誠喜	市ヶ谷A	陸上幕僚監部 人事部 人事計画課	
33	A	中塚 修一	市ヶ谷A	陸上幕僚監部 教育訓練部 訓練課	
33	A	富樫 勇一	市ヶ谷A	陸上幕僚監部 監理部 会計課	
33	A	近藤 哲也	旭川	第2特科連隊	
33	A	山本 裕一	市ヶ谷A	陸上幕僚監部 装備部 施設	
33	A	細野 容司	海田市	第13後方支援隊本部及び本部付隊	
33	A	郡山 直樹	伊丹	中部方面総監部 防衛部	
33	A	久永 智	退職		
33	A	川崎 英幸	退職		
33	A	椎葉 博正	退職		
33	A	半澤 新吾	退職		
33	F	岡本 秀文	目黒	幹部学校付	
33	F	荒木 俊一	府中	総隊	
33	F	高草木 浩寿	松島	第3航空団第3飛行隊	
33	F	御厨 広之	府中	総隊	
33	F	新崎 秀樹	市ヶ谷F	航空幕僚監部 運用課	
33	F	田中 勝也	退職		
33	F	増田 友晴	市ヶ谷F	航空幕僚監部 防衛課	
33	N	関口 雄輝	市ヶ谷N	海上幕僚総監部 厚生課	33期副持
33	N	町島 敬幸	市ヶ谷N	海上幕僚総監部 調査課	33期連絡員
33	N	渡邊 浩	大湊	大湊地方総監部 防衛部	
33	N	鶴澤 直樹	退職		
33	N	高橋 真一	退職		
33	N	西窪 純	退職		
34	A	石黒 太美英	市ヶ谷A	陸上幕僚監部防衛部運用課	
34	A	田中 一要	市ヶ谷A	技術研究本部(陸付)	34期副持
34	A	水室 正一郎	退職		
34	A	竹内 博忠	市ヶ谷A	陸上幕僚監部 装備部 開発課	34期連絡員
34	A	田丸 正勝	市ヶ谷A	中央資料隊付	
34	A	平林 理	南恵庭	第73戦車連隊 中隊長	
34	A	筒井 鋭達	市ヶ谷A	中央業務支援隊付	34期副持
34	A	能井 智治	駒門	第1後方支援連隊第2整備大隊戦車直接支援隊長	
34	A	松永 康則	市ヶ谷A	陸上幕僚監部庶務室	34期主将
34	A	篠原 康一	轟ヶ浦	武器学校	
34	F	小笠原 卓人	市ヶ谷F	航空幕僚監部 防衛課 防衛班	
34	F	田代 秀也	百里	7空団	
34	F	羽田 充伸	市ヶ谷F	航空幕僚監部 補給課	
34	F	河田 成治	退職		
34	N	富山 修	舞鶴	舞鶴地方総監部防衛部	
34	N	丹羽 満良	市ヶ谷N	海上幕僚総監部 航空機課	
35	A	戒田 重雄	市ヶ谷A	陸上幕僚監部 防衛部 運用課	35期主将 連絡員
35	A	中本 尚明	真駒内	第18普通科連隊 中隊長	
35	A	安藤 和幸	府中	航空自衛隊 総隊司令部	
35	A	坂本 雄一	市ヶ谷A	内局(防衛)	

期別	要員	氏名	基地等	所 属 部 隊 等	主将・副将・期連絡員
35	A	袖之原 公郎	菅広	1 対戦ヘリ 第2飛行隊	
35	A	川嶋 和之	北宇都宮	第12ヘリ隊	
35	A	馬淵 貴史	南恵庭	第3施設団本部	
35	A	中村 健太郎	習志野	第1空挺団本部	35期副将
35	A	福本 博氏	富士	富士学校 普通科部	
35	A	木場 元大	菅広	第4普通科連隊 中隊長	35期副将
35	A	瀬戸口 淳	名寄	318高射中隊長	
35	F	堀 修二郎	府中	航空自衛隊 総隊司令部	
35	F	中澤 武志	小牧	航空救難団航空救難隊	
35	N	中原 俊行			
35	N	森泉 周	江田島	業務隊付専攻科	
35	N	加藤 寛和	船越	掃海群幕僚	
35	N	三浦 則文	島	しまゆき	
36	A	岩村 伝法	退職		
36	A	福島 浩二	市ヶ谷A	情報本部	
36	A	井上 勝	朝霞	研究本部	
36	A	倉田 一	勝田	施設学校	
36	A	村上 至	朝霞	輸送学校	
36	A	中村 英昭	目黒	陸上自衛隊幹部学校CGS学生	36期副将
36	A	藤岡 史生	秋田	第21普通科連隊中隊長	36期主将 連絡員
36	A	矢口 鑑	朝霞	第2高射群中隊長	
36	A	山田 武彦	市ヶ谷A	中央システム管理隊	
36	A	榎窪 正和	下志津	高射学校幹部特修課程	
36	A	前田 尚男	市ヶ谷A	内局 (防衛)	
36	A	大北 知史	市ヶ谷A	陸幕 人事部補任課	
36	A	日高 邦登	富士	幹部特修課程学生	
36	F	綿森 昭示	市ヶ谷F	航空幕僚監部 防衛部兼 統幕5室	
36	N	鳥越 要	防大	訓練部中隊指導教官	
37	A	森安 宏徳	豊川	第10特科連隊	
37	A	大山 剛	市ヶ谷A	技術研究本部 (3研)	
37	A	河合 寿士	目黒	幹部学校指揮幕僚課程	
37	A	吉田 文二	東千歳	第7師団司令部3部	
37	A	山下 豊	東千歳	北部方面指揮所訓練支援隊	
37	A	児玉 洋	東千歳	第1陸曹教育隊	
37	A	平瀬 義	勝田	施設教導隊	37期主将
37	A	古田 和之	松戸	霽品学校	
37	A	富原 大治	玖珠	第4戦車大隊	
37	F	中居 景	小牧	1輸空隊 第401飛行隊	
37	F	久重 路 剛	千歳	第2航空団司令部施設班長	
37	F	矢坂 勝良	入間	飛行点検隊飛行隊	
37	F	塚原 敏夫	目黒	幹部学校学生	
37	N	岩本 正行	市ヶ谷N	海上幕僚監部装備部付 (米国FMS連絡官)	37期副将
37	N	石原 寿英	退職		
37	N	木下 治信	市ヶ谷N	海上幕僚監部	37期副将
37	N	鈴木 隆弘	大湊	第25護衛隊 ちくま	
37	N	高取 哲郎	厚木	厚木第3航空隊第3飛行隊	37期連絡員
38	A	水野 亮二	市ヶ谷A	技術研究本部 第1研究所	
38	A	宮下 克聡	前川原	幹部候補生学校	
38	A	尼子 将之	目黒	陸自幹部学校指揮幕僚課程学生	
38	A	黒子 智彰	朝霞	東部方面総監部 調査部	
38	A	高岡 徳人	富士	富士学校普通科部	
38	A	奇藤 浩	板妻	第34普通科連隊	38期主将 連絡員
38	F	向井 洋史	三沢	3空団	38期副将
38	N	高橋 俊隆	江田島	海上自衛隊幹部候補生学校	
38	N	中村 格	大湊	第25護衛隊 ちくま	
38	N	佐藤 滝大	厚木	第3航空隊	
38	N	城戸 利彰	岩国	第111航空隊	
38	N	平井 積治	御前ヶ		
39	A	長濱 誠	退職		
39	A	井上 嘉史	目黒	幹部学校指揮幕僚課程	
39	A	野本 繁	目黒	幹部学校指揮幕僚課程	39期副将
39	A	西田 美嗣	朝霞	東部方面総監部医務官付	
39	A	小澤 謙雄	岩手	9特科連隊 2特科大隊 中隊長	
39	A	井上 裕策	弘前	39普通科連隊 1中	
39	A	中村 公多朗	土浦	武器学校	39期主将
39	A	達下 裕教	習志野	第1空挺団普通科群本部管理中隊	
39	A	遠藤 英隆	明野	陸自航空学校	
39	A	三好 英治	立川	東部方面ヘリ隊 本部付隊	
39	A	杉原 正典	目黒	幹部学校指揮幕僚課程	
39	F	大塚 晋介	浜松	2術校	
39	F	久保 敦	入間	3補	
39	F	前床 泰彦	築城	8空団 飛行群 6飛隊	
39	N	鳥越 涉	退職		
39	N	松崎 徹	佐世保	佐世保造船補給所	
39	N	大松 清生	佐世保	第1術科学校	
40	A	朽木 誠	滝ヶ原	訓練評価支援隊	
40	A	奈良 一志	久里浜	通信学校	
40	A	上野 洋介	朝霞	研究本部	40期主将 連絡員
40	A	永友 恒知	富士	開発実験団装備実験隊	
40	A	高田 善行	朝霞	第1施設大隊第1中隊長	
40	A	熊本 敏	富士	富士学校 普通科部	
40	F	守井 孝志	千歳	2空団 飛行群 203飛隊	40期副将
40	F	岩本 正臣	浜松	2術校 第1教育部	
40	F	小坂 淳	静浜	11教団	
40	F	山田 賢治	那覇	南混団	
41	A	島ノ江 毅	福岡	第4後方支援連隊	
41	A	小段 雄三	遠軽	25普通科連隊 第1中隊	
41	A	建部 広喜	菅広	第5施設大隊本部及び本部管理中隊	
41	A	吉村 裕樹	岩手	9特科連隊 2特科大隊 本部中隊	
41	A	佐久間 博	神町	第20普通科連隊 第1中隊	
41	A	中江 宏彰	勝田	施設教導隊 第2施設中隊	
41	A	阿達 文明	習志野	第1空挺団普通科群	
41	A	川崎 英輔	富士	特科教導隊 第1射撃中隊	
41	A	後藤 仁志	習志野	第1空挺団本部	41期主将 連絡員
41	A	片上 裕文	明野	中方ヘリ隊	
41	A	小林 貴	霞ヶ浦	教育支援飛行隊	
41	A	綿貫 俊一	目達原	第4飛行隊	
41	A	石井 伸幸	文びの	第24普通科連隊	
41	A	曾我辺 信久	那覇	第6高射特科群	
41	F	松下 尚之	入間	電美群	
41	F	三宅 英明	百里	7空団 飛行群 204飛隊	41期副将
41	F	和崎 拓己	岐阜	飛行開発実験団	
41	F	レイケハネクス	留学生	フィリピン	
41	N	大川 洋史	退職		

期別	要員	氏名	基地等	所 属 部 隊 等	主将・副将・期連絡員
42	A	井田 輝彦	防大	防大理工学研究科後期学生 電子工学専攻	
42	A	清水 優	東千歳	第7後方支援連隊	
42	A	葛西 成彦	青森	第5普通科連隊	
42	A	足立 泰範	松本	第13普通科連隊	
42	A	古賀 信之	千僧	第3後方支援連隊 武器大隊	42期主将 連絡員
42	A	永島 透	(日本原)	第3次東子モール派遣施設群 (第13特科連隊)	
42	A	清水 大彦	退職		42期副将
42	N	尾崎 公彦	横須賀	第41掃海隊	
42	N	土本 邦彦			
43	A	徳永 亘	防大	防大理工学研究科	
43	A	與藤 公彦	真駒内	第11特科連隊	
43	A	梅原 航	霞目	東北方ヘリ 2飛	
43	A	廣瀬 繁	久里浜	久里浜警務隊 防大連絡班	43期主将 連絡員
43	A	藤本 祐介	姫路	第3特科連隊	
43	A	松口 俊三	小平	小平学校	
43	A	古谷 尚久	国分	第12普通科連隊	
43	A	関 大吾	横浜	中央輸送業務隊	
43	F	春日 英男	入間	2輸空隊	
43	N	江畑 泰孝	江田島	幹部候補生学校	
43	N	荒柴 拓也	呉	あけぼの	43期副将
43	N	森脇 竜二	大村	大村航空基地隊	
43	A	作田 雄一	磯崎		
44	A	遠藤 由紀子	東千歳	第7後方支援連隊 第2整備大隊 特科直接支援中隊	
44	A	増山 哲治	玖珠	第8戦車大隊 第2中隊	
44	A	渡邊 俊明	川内	第8施設大隊	44期主将
44	A	八尋 幸一	退職		
44	F	伊藤 恒和	那覇	南西航空警戒管制隊	44期副将
44	F	若林 友和	那覇	第83航空隊	
44	N	西尾 実	船越	せとゆき	
45	A	八木 新	旭川	第2高射特科大隊第2高射中隊	45期主将
45	A	澤水 隆一	川内	第8施設大隊第1中隊	45期副将
45	N	津森 聡	横須賀	きりしま	
45	N	堤 充良	佐世保	きりさめ	
46	A	阪井 旭	高知	第2混成団施設隊 (高知駐屯地)	46期副将
46	A	菊地 裕紀	那覇	第1混成群	46期主将
46	A	高木 聡	信太山	第37普通科連隊	
46	A	高橋 牧子	守山	第10後方支援連隊	
46	F	山本 剛嗣	千歳	北部航空施設隊第2作業隊	
46	N	伊藤 和典	奥	練習艦隊司令部	
47	A	松尾 崇嗣	久留米	第4特科連隊第5大隊	
47	A	関家 建一郎			
47	A	村重 亮			
47	A	久郷 一雄			
47	A	田中 勝茂	座間	第4施設群363中隊	
47	A	樋口 智志			
47	A	本田 一郎			
47	A	矢野 健一			
47	A	半澤 武久	北熊本	第8化学防護隊	47期主将
47	N	谷口 裕昭			47期副将
47	F	溝上 雅央			
48	A	岩田伸太郎	前川原	陸上幹部候補生学校	
48	A	小林 猛	前川原	陸上幹部候補生学校	
48	A	藤原 宏匡	前川原	陸上幹部候補生学校	
48	A	对比地 貴行	前川原	陸上幹部候補生学校	
48	N	飯沢 直人	江田島	海上幹部候補生学校	48期主将
48	N	砂川 広樹	江田島	海上幹部候補生学校	
48	N	廣神 敏	江田島	海上幹部候補生学校	48期副将

編集後記

49期 OB係 永田忠義

合掌

平成16年度の春を向かえ、ここ小原台にも暖かな日々がやってまいりましたがOBの皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。私ども防衛大学校少林寺拳法部は、みな向上心を持って日々の練習に励んでおります。

近年部員数の減少に頭を悩ませてきた我々ですが、15年度には17名の新入部員を迎え、少林寺拳法部の新たな時代を築く第一歩を進めることが出来たと思います。今年度もその勢いをさらに増すべく、また先輩方から受け継いできた伝統のすべてを次の世代へと引き継ぎさらに高めていくためにも、まずは新入部員の獲得を第一の目標として努力していく所存であります。OBの皆様方に置かれましては、ご多忙の中とは存じますが、どうかこれからも私どもへ御指導御鞭撻の程どうかよろしく願いいたします。

最後になりましたが、本誌発行のためにご指導を頂いた顧問・OBの方々をはじめ、投稿してくれた各学生に深く感謝し、編集後記とさせていただきます。

結手

